

牡丹の間と鶯張りの床

この寺の牡丹の間は、受付を通った先の左側にあるのだが、伏見城にあった部屋を移設したものである。もともとの部屋は日本を統一した武将、豊臣秀吉（1537～1598年）の書斎として使われていた。半ば伝説上の盗賊であり、貧者に施しを与えた、ならず者の英雄である石川五右衛門（1558～1594年）がこの部屋に忍び込んだと言われている。石川五右衛門が大釜で生きたまま釜茹での刑で処刑されたというのは有名である。この部屋は、狩野山楽（1559～1635年）が描いた素晴らしい牡丹の絵画からその名がついた。この部屋の中心仏は地蔵菩薩である。地蔵菩薩は衆生の救世主である。左側の脇侍は無量光仏とも呼ばれる阿弥陀如来であり、右側の脇侍は慈悲の菩薩である如意輪観音菩薩である。

本堂につながる廊下には仏教寺院としては特異な特徴がある。床が鶯張りなのである。この名前は、この床板の上を歩くと鳥のさえずりのような音が鳴るからである。鶯張りの床は一部の城や宮殿、神道の神社に見られる。初期の鶯張りの床は、ただ単に床板が乾燥していたために音が鳴っただけなのかもしれないが、のちの鶯張りは、侵入者の存在を知らせるために意図的に設計されたものだと研究者は考えている。養源院は、長く権力の座にあった徳川家と関係のある寺だったために、この特別な特徴を備えている。